

2016-07試験問題（白石忠志）

以下の3問全てに答えよ。（第3問は2枚目）

第1問（配点割合：全体の4分の1）

下記の英文は、欧州委員会（the Commission）の非水平型企業結合ガイドラインにおける投入物閉鎖（input foreclosure）に関する記述の一部である。この内容を、日本語で伝えよ。

In assessing the likelihood of an anticompetitive input foreclosure scenario, the Commission examines, first, whether the merged entity would have, post-merger, the ability to substantially foreclose access to inputs, second, whether it would have the incentive to do so, and third, whether a foreclosure strategy would have a significant detrimental effect on competition downstream. In practice, these factors are often examined together since they are closely intertwined.

第2問（配点割合：全体の4分の1）

マリンホース事件のような国際市場分割事件について、日本独禁法においては日本企業のみ課徴金が課され外国企業には課徴金が課されない結果となる原因を、簡潔に説明せよ。

（第3問は2枚目）

### 第3問（配点割合：全体の2分の1）

下記の事実関係を前提として、Tが、Mに対し、Mの独禁法違反行為による損害の賠償を求めて、民法709条に基づく訴えを提起した。

独禁法違反という主張に絞って、その成否について論ぜよ。必要に応じ、事実関係を補充したり、場合分けをしたりしてよい。

U診療所は3階建ての自社ビルを所有しており、M株式会社が製造販売したエレベータを設置している。エレベータは診療所の運営に必須である。Uは、エレベータの普通の保守についてはT株式会社と契約していた。

ある日、エレベータに故障が発生し、Tが調査したところ、部品交換が必要であることがわかった。M製エレベータ用の部品はMが一手に販売している。

Uは、Tを介して、Mに対し、部品の早期供給（MによるUに対する販売）を依頼した。Mは、エレベータ（部品を含む。）の製造販売から保守に至るまでの全ての部門を、子会社化することなくM自身に置いている。

Mの担当者がUを訪問した。Uの代表者であるD医師は、問題のエレベータの前で、Mの担当者に対し、「Tに保守をさせているからこのようなことになったのかね。Tもよくやっているんだがね。こんなことになるようなら、いろいろと考えないといけないね。」と発言したが、Mの担当者は返答しなかった。Mの担当者は、それからエレベータの実況見分に取り掛かった。実況見分の終了後、Mの担当者は、「ロー2016という部品の交換が必要ですが、在庫の関係で、納期は2ヶ月後です。」と述べて帰った。

翌日、Uは、Tとの保守契約を解除し、Mと保守契約を結んだ。

その3日後、Mが、ロー2016をUのもとに持参し、取替え調整工事を行ったので、エレベータは正常運転を再開した。

（UはユーザのU、MはメーカーのM、TはサードパーティのT、DはドクタのDである。）

（以上3問）